

令和 6 年 1 2 月の住まいのきになる通信

目次

- (1)  注文住宅、5000 万円超える
- (2)  「超省エネ住宅」区分新設
- (3)  マンションの防犯対策 オートロック過信禁物

(1) 注文住宅、5000 万円超える

積水ハウス、自由な設計強みに 市場は縮小、顧客開拓競う

*積水ハウスの注文住宅の 1 頭当たりの単価が初めて 5000 万円を超えました。

*積水ハウスの注文住宅の平均価格は 2024 年 2～7 月期、5184 万円。

*2024 年 1 月期の年間平均から 5%増。

*平均面積は 136.3M2 で、坪単価は 125 万円超。

*大和ハウス工業や住友林業など他の住宅メーカーの平均価格も伸びています。

*大和ハウスの 2024 年 3 月期の平均価格は、2021 年 3 月期比 24%増の 4900 万円。

*住友林業は 2024 年 1～6 月期に 2020 年 12 月期年間比 26%増の 4400 万円。

*2023 年は注文住宅に相当する「持ち家」の着工戸数は 224,352 戸で、2022 年比 11%減少。

*金融資産を 1 億円以上持つ富裕層は、日本に 149 万世帯存在。

(2024 年 11 月 7 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 「超省エネ住宅」区分新設

政府 来年度、新築に 160 万円補助

*政府は従来タイプ以上に省エネ性能が高い住宅の普及を促します。

*断熱性能が優れ、太陽光パネルなど再生可能エネルギー設備の整った家に 1 戸あたり 160 万円を支援。

*2025 年度から申請を受け付けます。

*「グリーントランスフォーメーション（GX）」志向型住宅」という超省エネ住宅の区分を設け、補助の対象に。

*エネルギー消費量をGX志向型では削減量を35%以上に。

*消費エネルギーを実質ゼロにすることを求めます。

*注文住宅に加え、分譲住宅や賃貸住宅でも補助の対象とします。

*2025年4月以降、新築住宅は省エネ基準を満たすことが義務化されます。

*2030年にはZEH水準に引き上げられます。

(2024年11月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) マンションの防犯対策 オートロック過信禁物

*2023年の住宅への侵入窃盗（認知件数）は17,469件。

*近年は減少傾向だったものの、前年に比べて11.3%増。

*1日あたり48件発生している計算に。

*戸建てが約3割と最も高いですが、共同住宅全体でも約1割に達します。

*オートロックのマンションであっても、世帯数が多いほどドアの開閉も頻繁に。

*住人が出入りするタイミングで入り込むのも可能。

*オートロックを過信するのは禁物。

*特定の部屋を狙うというよりは無施錠のドアを片っ端から探していくのが手口。

*マンションは戸建てに比べると死角になる場所も多くあります。

*長時間潜み、留守宅を見極めて狙う窃盗犯もいます。

*屋上からロープを垂らしてベランダに降りたり、植木や雨樋を使って2～3階のベランダに登ったりするケースも。

*大規模修繕工事中で足場が組まれていれば、侵入はさらに容易に。

*鍵をかけていないケースも半数近くあります。

*玄関はツーロックにして、窓には補助錠を取り付ければ安心感は増します。

*高層階だからといってベランダに鍵をかけず、開けっ放しにしてはいけません。

*防犯カメラはエレベーター内、駐車場などにそれぞれ設置することが欠かせません。

*ただ、カメラに怪しい人物が映っていても、よく見えなければ役に立ちません。

(2024年11月30日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)